

ローカル線再起による石川県観光発展施策 Ishikawa Prefecture Tourism Development Measures by Reviving Local Lines

佐藤信治¹, ○石本かえで²

Shinji Sato¹, *Ishimoto Kaede²

The Hokuriku Shinkansen opened to Kanazawa on March 4, 2015. The number of users has tripled to 9.26 million, which is much higher than initially expected. This momentum has been increasing since the second year. The number of users has not declined, and the number of users has remained at a level much higher than before the opening of the business. There is no straw phenomenon that was initially a concern, and conversely, there are movements such as moving offices to the Hokuriku region. Capital investment trends in the region have remained at a high level, and hotel-related investment is particularly active, reflecting strong tourism demand. According to the 2013 survey, the number of new visitors from the Tokyo metropolitan area due to the opening of the Shinkansen The increase in the number of Japanese guests is estimated to be 320,000, and the economic ripple effect is estimated to be 12.4 billion yen. It was much higher than expected, and the estimated ripple effect far exceeded the pre-opening forecast.

Furthermore, when we analyzed the sensitivity of the number of visitors and the spillover effect of the unit price, we found that the increase in the number of inbound customers and the increase in the unit price of Japanese customers were significant.

Based on this result, in order to continue the effect of opening the Hokuriku Shinkansen Kanazawa in the area, we will continue to attract inbound tourists and raise the average customer price for Japanese customers without getting tired of consumption in the area. A two-tiered tourism strategy is required for each.

In addition, the situation is expected to be even more severe in the future for local lines and third sector railways in regions that do not have major tourist destinations.

In this proposal, tourism development in Ishikawa Prefecture will be planned by forming tourist destinations other than Kanazawa City on the local line in Ishikawa Prefecture.

1. はじめに

2015年3月4日に北陸新幹線が金沢まで開業した。



Figure 1 Kanazawa Station.

利用者数は開業前の約3倍となる926万人と、当初予想を大きく上回る結果となっている。この勢いは2年目以降も衰えておらず、利用者数は開業前を大きく上回る水準で推移している。当初懸念されていたストロー現象もみられず、逆に北陸地域にオフィスを移す等の動きもみられる。それに併せ、当地の設備投資動向は高水準で推移しており、特に旺盛な観光需要を反映して、ホテル関連投資が活発である。

2013年の調査においては、新幹線開業による首都圏からの新規入込客数の増加を32万人、その経済波及効果を124億円で試算している。単純には比較できないものの、今試算における日本人宿泊客増加数(64万人)

だけでも当初の入込客数増加見込みを大きく上回っており、波及効果の推計値は開業前予想をはるかに超過する結果となった。

さらに、入込客数と単価の波及効果に与える感応度を分析したところ、インバウンド客の入込数増加と、日本人客の単価上昇の効果が大きいことが分かった。

この結果から、今後も当地において北陸新幹線金沢開業効果を持続させるため、引き続きインバウンド客の誘致に努めるとともに、日本人客に対しては当地における消費を飽きさせずに客単価を上げるというそれぞれのセグメントごとに観光戦略が必要である。



Figure 2 Awagasaki Kaigan Station

また、主要な観光地を抱えていない地方のローカル線、第三セクター鉄道に関しては、今後さらに厳しい状況が予想される。

1: 日大理工・教員・海建 Department of Oceanic Architecture and Engineering, College of Science and Technology, Nihon University.

2: 日大理工・学部 4・海建 Department of Oceanic Architecture and Engineering, College of Science and Technology, Nihon University.

本案では、石川県における、金沢市以外の観光地をローカル線路上に形成することで、石川県の観光開発を図るものとする。

2. 計画背景

2.1. 石川県のインバウンド需要

石川県の訪日外国人観光客数は639,490人で、一人当たりインバウンド消費額は23,439円。最も多かった国籍は台湾で200,441人、そして香港の68,508人、続いて中国の58,257人という結果だった。兼六園や鼓門など、風情ある観光名所を持つ石川県は、国籍で見ると、アジアからの観光客が半数以上を占めている。

しかし4位にはアメリカ、5位にはオーストラリアがランクインしており、比較的欧米からの観光客も多いことが伺える。訪問者数は成長するものの、平均宿泊日数と1人あたり消費単価が減少しているため、今後は滞在時間を増やせる観光コンテンツの掘り起こしに力をいれる必要がある。

Table 1 Inbound Demand in Ishikawa Prefecture

項目	数値
訪問率（2019年）	2.01%
訪問者数（2019年）	639,490人
述べ宿泊者数（2019年）	942,300人泊
平均宿泊日数（2019年）	2.2泊
1人1回当たり旅行消費単価	23,439円

Table2 Trends in the Number of Tourists Visiting Japan by Country※1

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	過去5年の伸び率
台湾	141,229	172,819	167,269	174,272	200,441	141.93%
香港	34,763	43,148	50,828	48,618	68,508	197.07%
中国	30,784	54,293	55,519	80,062	58,257	189.24%
その他	33,966	35,405	65,437	46,254	54,799	161.33%
米国	22,561	32,401	44,345	36,975	38,784	171.82%
オーストラリア	16,171	21,199	20,972	30,819	33,196	205.29%
イタリヤ	10,766	16,670	17,841	20,546	22,593	209.82%
英国	9,842	10,969	19,157	13,443	20,139	208.87%
タイ	5,539	9,800	6,521	14,644	18,192	328.33%
フランス	10,770	13,649	21,580	16,854	17,274	160.39%
インドネシア	5,502	4,230	9,665	10,863	16,892	307.02%
韓国	17,251	18,642	23,776	23,981	15,245	88.37%
カナダ	8,627	11,203	13,597	9,521	14,963	173.44%
スペイン	6,686	8,980	9,845	11,005	12,631	188.64%
ドイツ	4,699	8,667	5,676	9,809	9,879	210.24%
マレーシア	6,743	4,565	9,705	7,331	8,826	130.89%
シンガポール	7,512	9,756	4,988	7,938	7,032	93.61%
フィリピン	1,174	1,029	448	1,846	4,056	345.99%
ベトナム	812	2,847	3,534	5,244	1,650	203.20%
ロシア	677	530	1,517	1,392	780	112.26%
インド	458	526	641	1,371	304	66.36%

2.2 金沢都市圏の交通機関利用状況

自動車利用率は28.4%増加。公共交通利用率は7.5%減少。今後も引き続き自動車利用は増加、公共交通は減少が予想される。自動車は、昭和49年から増加しており、平成19年の自動車利用率は67.2%になっている。

また、公共交通の利用は減少しており、平成19年には6.4%となっている。このままの状況が続くと、令和6年には、自動車が72.3%に増加、鉄道が1.4%、路線バスが4.2%に減少すると考えられる。

2.3. 石川県の観光地

石川県の中心地金沢の街の主要な観光地であれば、1日で回ることができてしまう。なぜなら、金沢の観光名所は、東京の皇居の1周5kmのジョギングコースと同じくらいの範囲に集まっているからである。

3. 建築計画

3.1 基本計画

現在の石川県の観光地の中心になっている金沢市以外での観光地となる場所を駅周辺や、駅内に増やすことで、金沢市内だけではなく石川県の良いところに電車を使って観光してもらえようという提案にする。

3.2 計画地

3.2.1. 敷地選定条件

計画背景および計画方針より以下の4つ選定条件を設ける。

- (1) 石川県の観光地となっていない地域
- (2) 電車が通っているが発展していない場所
- (3) 金沢駅からの交通の便がいいところ
- (4) 水辺がある場所

3.2.2. 計画敷地

選定条件より、石川県金沢市の北鉄金沢駅から、同県河北郡内灘町の内灘駅間を結ぶ北陸鉄道の鉄道路線である、北陸鉄道浅野川線を計画地とする。浅野川線は、北鉄金沢駅から終点の内灘駅まで6.8kmしかない短い路線で、全12駅中9駅が無人駅であるため、今回の計画地としてふさわしいと考える。



Figure 3 Hokuriku Railway Asanogawa Line

4. 参考文献

- [1] 北陸新幹線金沢開業による観光活性化が石川県内に及ぼす経済波及効果/日本政策投資銀行
- [2] 石川県のインバウンド/株式会社 Fun Japan Communication※1
- [3] 金沢都市圏内の交通機関利用の状況/金沢都市圏総合都市計画協議会